

## ペンペングサも生えない

春の七草は、これから本番を迎えますが、いずれも小さな、綺麗な花がたくさん咲きます。草にしておくのが惜しくなります。

ペンペングサはこの春の七草の一つ「ナズナ」の別名です。古来、日本画や漆絵などの題材として扱われており、パッとみて、何の花だろうと考えてしまいます。

ペンペングサが屋根に生えると、その家は廃れると言います。屋根に草が生えても手入れする余裕が無いということでしょうか。

同じように「〇〇が通った後は、ペンペングサも生えない」などと言う言葉も良く耳にします。わずかな隙間や痩せた土地でも生える強いペンペン草も生えないほど荒れてしまうことの譬えに使われています。

商売（ビジネス）の世界においてこのペンペングサも生えない状態は、先に通った人と後から通った人の立場によって変わってきます。後から通った人にとっては、これから商売しようにも全く売れない状態であり、先に通った人にとっては売れるものは売り尽くした状態であり、後から通った人の負け惜しみ、恨みでしかないのです。

「〇〇が通った後は、ペンペングサも生えない」の〇〇に良く使われるのが近江商人です。近江商人の心得、鉄則に「売り手良し」「買い手良し」「世間良し」の『三方よし』があります。己も儲けるが、取引先も喜び、周囲・社会にも喜んでもらえるということです。江戸時代、このような三方よしの商人が定期的に行商に来るとすれば、次に来るまで買い控え、待ってみようとなったに違いありません。

ビジネスの世界で「ペンペングサも生えない状態」とは、顧客を完全に囲い込んだ状態です。マーケティングを一言でいえば、自然とモノが売れる状態を作る事となります。ペンペングサも生えない状態とはマーケティングが成功した状態です。

ビジネスのフロンティアを求めて、最近ではアフリカの奥地まで進出するようになってはいますが、現地の鉱物資源を自国の機材と労働力を持ち込んで掘りつくし、鉱物資源は全て持ち帰るようなビジネスでは、文字通りペンペングサも生えない砂漠となります。現地の人裕福になり、やがて、先進の製品も買ってくれるようになる、そんな経済援助・商売を行いたいものです。

▼春の七草には次のような謂われがあるそうです。

「セリ … 競り勝つ」「ナズナ … なでて汚れをはらう」「ゴギョウ … 仏体」「ハコベラ … 繁栄がはびこる」「ホトケノザ … 仏の安座」「スズナ … 神様を呼ぶ鈴」「スズシロ … 汚れのない純白さ」

春の七草はこれからです。旬の七草粥を食べて、心身ともにリフレッシュしましょう。